

会報12号
2015年 8月 25日

電話 075-691-7561
発行責任者 木村信彦
編集責任者 石田房一
広報編集部 松田誠二
編集部員 清水美優・西片里紗

吉祥院六斎歴史研究会 獅子の如く

京都 獅子の如く 吉祥院

吉祥院六斎念仏踊り 重要無形民俗文化財指定

国の重要無形民俗文化財指定
吉祥院六斎念仏踊り



*It has been designated an Important Intangible Folk Cultural Property.
Kissyoin Rokusai Nenbutsu Odori. designated in 1983.*

現在、吉祥院六斎保存会の会員は、二十五歳〜八十歳まで、十五名が所属している。

木村俊典保存会会長は、「時代の変化に伴い、現在の規模を維持するのも難しい状況にある」と話す。このため六斎保存会の若手で組織化した六斎歴史研究会獅子の如く(木村信彦会長)が六斎を支える仕組みづくりとして、子ども六斎会の指導や



会報「獅子の如く」を発行するなど活性化に取り組んでいる。

小学一年生から中学生で組織化した「吉祥院子ども六斎会」は、宿泊練習会を取り組む他、年に二度の「晴れ舞台」になる吉祥院天満宮舞楽殿に保存会とともに競演する。

次世代に刺激を与えるなど活動の励みや目標となる公演を目指している。

担い手の減少に悩む「吉祥院六斎保存会」(木村俊典会長)と六斎の歴史的意義を地域に伝える活動する「吉祥院六斎歴史研究会(獅子の如く)」(木村信彦会長)が連携し、子どもや若手の担い手を支える活動に乗り出す。担い手育成を目指す「吉祥院子ども六斎会」の子どもたちを中心に、新たな定期公演の開催や、若手の活動を応援するサポーター制度を提案するなど、次代の担い手の育成、支援に組織をあげて取り組まれている。

獅子の如く担い手の指導



呉竹文化センターホールに吉祥院六斎の出演決定!

九月二十七日(日)、開演午後一時三〇分から午後三時終演、京都市呉竹文化センターホール(伏見区)で吉祥院六斎踊りが出演いたします。

古くから継承されてきた吉祥院六斎念仏の歴史について、石田房一NP

○法人ふれあい吉祥院ネットワーク副理事長が「六斎の歴史」をテーマに講演し、その後、吉祥院六斎保存会と獅子の如くが吉祥院六斎念仏を披露します。

この取り組みは、地域に根ざして活動している芸能文化団体の舞台公演を開催することで、地域の芸能文化の振興及び発展に寄与する目的で開催されます。

どなたでも入場(入場無料)できますので、ぜひご覧いただきたいと思っております。

◆問い合わせ
呉竹文化センターホール
伏見区京町七丁目三十五の一
電話〇七五・六〇三・二四六三
近鉄京都線「丹波橋駅」西口
※駐車場はありません。

国の重要無形民俗文化財に指定されている吉祥院地域の伝統芸能を体験してみませんか? 獅子の如く(大学生)が楽しく指導してくれます。一度、チャレンジしてみてください…。待っています!

主催/獅子の如く吉祥院六斎歴史研究会

吉祥院六斎 チャレンジ体験

無料体験

●日時... 2015年8月29日(土) 10:30~12:00
●場所... 吉祥院高齢者ふれあいサロン

見る六斎念仏から 体験する六斎念仏へ

●持ち物... タオル・飲み物(水筒)等
●対象... 小学生・中学生・高校生
●指導員紹介... 木村 信彦 Nobuhiko-Kimura
村田 大輔 Daisuke-Murata
清水 美優 Miyuu-Shimizu
西片 里紗 Risa-Nishikata
指導者/獅子の如く 六斎歴史研究会

●保護者の皆さまへ
吉祥院地域の文化を学ぶことのできる「エデュテイメント六斎」の一環として地域芸能と六斎念仏をテーマにした体験型プログラムを企画しました。子どもたちに吉祥院地域の伝統文化財を一度チャレンジさせてください。気軽に参加してくださいね...!
※エデュテイメントとは教育的要素を含んだ取り組みです。

※お問い合わせはコチラ
TEL 075-691-7561
吉祥院いきいき市民活動センター
休館日: 毎週火曜日

吉祥院六斎担い手育成基金「吉祥院六斎サポーター」にご登録いただいている企業や組織の皆様をご紹介させていただき、敬意を表します。

<p>NPO法人ふれあい吉祥院ネットワーク</p> <p>理事長 野村良博</p>	<p>解放新聞社京都支局</p> <p>〒603-8151京都市北区小山下総町5番地の1 京都府部落解放センター内 代表 西島藤彦</p>	<p>株式会社新井建設工業</p> <p>〒601-8364京都市南区吉祥院石原南町16-24 代表取締役社長 新井正幸</p>
<p>吉祥院人権啓発企業連絡会</p> <p>会長 西留哲郎</p>	<p>企 祥 会</p> <p>代表 山中兼一</p>	<p>岩本建設株式会社</p> <p>〒601-8361京都市南区吉祥院石原京道町31番地 代表取締役社長 岩本俊博</p>

吉祥院天満宮

「天神さん」で親しまれる吉祥院天満宮のお祭りは、吉祥院地域の子どもたちをはじめ、地元住民、観光客等で大いに賑あう吉祥院地域の伝統的なお祭です。

吉祥院六斎歴史研究会獅子の如く統括顧問 石田房一



■吉祥院天満宮拝殿■



子どもの頃(昭和三十四年生まれ)、各町

内で取り組まれた地蔵盆や盆踊りなど、夏休みの楽しみの一つでした。

中でも「天神さん」(吉祥院天満宮)の「お祭り」は、地域の子どもたちを

はじめ、観光客で大いに賑あう伝統的なお祭りです。

毎年、四月二十五日には「子ども神輿」が巡行され、また八月二十五日の夏季大祭

は、夏休みも終わりに差し掛かっていることもあり、友達と顔を合やすことの出来る夏の地域の一大行事です。

転校した友達や、中学生で私学に進学した日頃会えない友達たちと会う約束をしたりして、ちよつとしたミニ同窓会が開かれるのも天神さんの楽しみの一つでした。

五十年前、親父に連れられて行った時と同じ場所に夜店が立ち並び「天神さん」は子どもの頃に戻れる貴重な場所でもあります。



串かつ、綿菓子、リンゴ飴、輪投げ、今も昔も様子は少しも変わっていません。

一通り夜店を回り終えた午後八時に、吉祥院天満宮の境内の舞楽殿で吉祥院六斎保存会の「六斎奉納」が始まります。町内の顔見知りの兄ちゃ

んたちが揃いの浴衣を着て、太鼓を叩く姿に「カッコええ」と思ったものです。

六斎奉納の終盤、「獅子と土蜘蛛」が登場すると会場の熱気も高まり、土蜘蛛の巢(せい)撒きは客席に放たれ、子どもたちは、我先にと舞台に近づき蜘蛛の糸の洗礼を受け、それを家に持ち帰るのが恒例でした。

吉祥院六斎念仏踊り

吉祥院は古くから六斎念仏踊りが盛んに行われて、八組の六斎組が保存されてきましたが、今では、菅原組の六斎保存会が吉祥院六斎念仏踊りとして継承され、国の重要無形民俗文化財に指定されています。

毎年、四月二十五日の春期大祭と八月二十五日の夏期大祭に



■獅子(吉祥院六斎保存会)■

そして、祭りが終われば夏休みの宿題の追い込みに入り、長いようで短かった夏休みは終わりを告げます。

「吉祥院天満宮拝殿」は、二〇〇二年(平成十四年)菅原一〇〇年祭に改築されました。菅原道真を祭神として祀られています。



■安達ヶ原(吉祥院六斎保存会)■

は、境内の舞楽殿で六斎奉納されています。

六斎念仏は、平安時代に空也上人が、民衆に信仰を広めるために鉦や太鼓をたたいて踊躍(ゆうやく)念仏を始めたのが起りとして、民衆に仏教を広めるため六斎日(毎月八、十四、十五、二十三、二十九、三十日)に町中で鉦や太鼓を打ちながら

念仏を唱え踊ったことから六斎念仏と称されるようになったといわれています。

後に風流化し、能や歌舞伎などを取り入れ、芸能化した「芸能系六斎」と念仏踊を主とする「念仏系六斎」の二つの系統に分かれて現在に伝わっています。

京都の六斎念仏は、一九八三年(昭和五八)に国の重要無形民俗文化財に指定されています。



京都の主な六斎念仏として、吉祥院六斎念仏踊りの他、六波羅蜜寺空也踊躍念仏、円覚寺六斎念仏、西方寺六斎念仏、久世六斎念仏、中堂寺六斎念仏、壬生六斎念仏、梅津六斎念仏、嵯峨野六斎念仏、千本六斎念仏、小山郷六斎念仏、桂六斎念仏があります。

広報／(松田誠二)



右写真 中堂寺六斎念仏(壬生寺)

吉祥院六斎担い手育成基金「吉祥院六斎サポーター」にご登録いただいている企業や組織の皆様をご紹介させていただき、敬意を表します。

清華園

〒600-8202京都市下区川端町11
☎ 075-351-8391 店主 清水 悟

平井 斉己

Toshiki - Hirai

武田 徹

Touru - Takeda

井上工業所

〒601-8395京都市南区吉祥院中河原西屋敷町21-1
☎ 075-311-7430 代表取締役 井上孝司

㈱ダイヤ・セキュリティ・ジャパン

代表取締役 石井啓介

㈱西建

〒601-8343京都市南区吉祥院稲葉町31番
☎ 075-661-2929 代表取締役 西留哲郎